

平成28年度
セント・ピーターズバーグ市派遣
高校生親善研修生報告書

平成28年度 7月24日(日)～8月4日(木) 12日間



公益
財団
法人

Takamatsu International Association

高松市国際交流協会

目次

1. 日程表	1
2. セント・ピーターズバーグ市派遣 高校生親善研修生滞在日程表	2
3. フォトギャラリー	
4. 引率者感想文 高松市立高松第一高等学校 教諭 日野 泰尚 「ゆく川の流れば絶えずして」	3
5. 親善研修生 報告書 I 香川県立高松高等学校2年 川淵 宥依 日誌・活動記録	5
感想文 「人との繋がりがた」	16
6. 親善研修生 報告書 II 高松市立高松第一高等学校2年 近藤 宏美 日誌・活動記録	17
感想文 「国際交流って楽しい? 難しい?」	28
7. 親善研修生 報告書 III 香川県立三木高等学校1年 古市 一真 日誌・活動記録	29
感想文 「かけがえのない12日間」	41

日 程 表

高松空港—タンパ空港

日 付		便 名	発着時刻
7/24(日)	出発	高松空港	GK416 18:15
	到着	成田空港【ホテル日航成田で前泊】	19:40
7/25(月)	出発	成田空港	JL10 11:10
	到着	シカゴ空港	9:05
	出発	シカゴ空港	JL7438 15:14
	到着	タンパ空港【現地お出迎え】	18:50

研修生：7/25(月)から8/3(水) セント・ピーターズバーグ市でホームステイ
 引率者：7/25(月)から7/29(金) セント・ピーターズバーグ市内のホテルに宿泊
 7/30(土)から8/3(水) セント・ピーターズバーグ市でホームステイ

タンパ空港—高松空港

日 付		便 名	発着時刻
8/3(水)	出発	タンパ空港【現地お見送り】	AA1186 7:05
	到着	シカゴ空港	8:56
	出発	シカゴ空港	JL9 12:45
8/4(木)	到着	成田空港	15:35
	成田空港→羽田空港【リムジンバスで移動】		
	出発	羽田空港	JL487 19:55
	到着	高松空港	21:10

平成28年度セント・ピーターズバーグ市親善派遣研修生 滞在日程表

平成28年7月24日(日) - 8月4日(木)

日 時	場 所	研 修 内 容
7月24日(日)	高松空港—成田空港	・高松空港：出発式 ・成田空港近くのホテルにて前泊
7月25日(月)	タンパ空港	・現地連絡員、SPIFFS担当者、ホストファミリーのみなさんによる出迎え
7月26日(火)	セント・ピーターズバーグ市役所	・副市長表敬 ・市役所見学 ・香川県・高松市についてのプレゼンテーション発表
7月27日(水)	セント・ピーターズバーグ高校	・校内施設や運動場を見学
	セント・ピートビーチ	・今年度セント・ピーターズバーグ市受入親善研修生と一緒に海水浴
7月28日(木)	ダウントウン	・芸術家Derek Donnellyさんによる市街壁画見学ツアーに参加
	ダリ美術館	・サルバドール・ダリの作品鑑賞(現地連絡員による解説)
7月29日(金)	セント・ピーターズバーグ歴史博物館	・館内見学(担当者による解説)
	ホストファミリー宅	・茶道披露
7月30日(土)	【ホストファミリーデー】 SPIFFSメンバー主催のバーベキューパーティ	
7月31日(日)	【ホストファミリーデー】 タンパベイ・レイズ野球観戦	
8月1日(月)	ザ・ヴィノイ・ルネッサンスホテル	歴史あるホテル内を担当者の解説付きで見学
	セント・ピーターズバーグ商工会議所	・香川県・高松市についてのプレゼンテーション発表
8月2日(火)	SPIFFS 【セント・ピーターズバーグ国際民族会】	・SPIFFS主催の送別会 ・各国の民族舞踊等の鑑賞 ・香川県・高松市についてのプレゼンテーション発表
8月3日(水)	タンパ空港	・関係者、ホストファミリーのみなさんによる見送り
8月4日(木)	高松空港	・研修生家族・協会職員による出迎え



**St. Petersburg
Photo Gallery 2016**





市街壁画ツアー



タリ美術館見学



セント・ピーターズバーグ歴史博物館



茶道披露



タンパベイ・レイズ野球観戦



セント・ピーターズバーグ商工会議所



SPIFFS 主催の送別会



タンパ空港にてお見送り

引率者感想文

ゆく川の流れは絶えずして



高松市立高松第一高等学校 教諭
日野 泰尚

今年に入り、フランス、ドイツ、トルコ、バングラデッシュ、そして、アメリカとテロやそれら



セント・ピーターズバーグ市役所にて副市長と対面

しきものが続発する中でのアメリカへの旅立ちであった。今までは、高校生の研修生だけでセント・ピーターズバーグ市を訪問していたが、いろいろなことが懸念されるということで、今回から引率者が同行する事になり、現地での滞在経験がある私に白羽の矢が立った。研修生が現地の方との交流を通して何かを学び、有意義な時間を過ごす事はとても大切ではあるが、引率者としては、全員無事に帰国することが一番であるということが、頭から片時も離れなかった。色々心配していた事もあったが、川淵さん、近藤さん、古市君それぞれ

が、研修生としての使命を自覚し、個性を發揮しながら、立派に現地の方と交流ができ、無事全員揃って帰ることが出来、私の心配は全て杞憂に終わった。

私にとっては、26年振りのセント・ピーターズバーグ市ではあったが、高校生をサポートしながらも、現地の方々と交流ができて非常に密度の濃い時間であった。昔お世話になった方々もお元気で、旧交を温めることができた。お互いに年を重ねたが、大過なく日々を過ごされてきたようで感慨無量であった。また、3年前に高松第一高等学校で英語教師として勤務されたSaigeさんにも再会でき、お互いの近況を報告しながら楽しい時間が過ごせた。今回、引率者の私もホームステイを経験させて頂き、新たに親交を結ぶこともでき、有意義な滞在となった。ホームステイは若い頃に一度経験があったが、私のような年配者を受け入れてくれるLauraさんのような方がいると言うだけでも、アメリカの懐は広いと改めて感嘆した次第であった。

現在の高松市が26年前の高松市とは大きく違っているように、セント・ピーターズバーグ市も随分と変わっていた。今回知り合いになった方がセント・ピーターズバーグ市について、次のように語られた。「少し前まではセント・ピーターズバーグは、God's waiting room (神の待合室) と言われ、老人が多いだけで、美しいビーチ以外にこれと言って何も特徴のない街だった。しかし、今はアート等を中心にダウンタウンが整備され、新しい



Saigeさんと再会



サンケンガーデンにてLauraさんと

ビルがたくさん建ち、若者の人口がどんどん増えているのです。」私も、香川県も瀬戸内芸術祭で島々が賑わいを取り戻し、香川がアートの先進県となりつつあることを話し、我々の会話は盛り上がった。

最後に、このような貴重な機会を設けていただいた方々、いろいろお世話していただいた方々全てに感謝申し上げる次第である。また、高松市とセント・ピーターズバーグ市の友好関係が末永く続くことを願ってやまない。

親善研修生 報告書 I

日誌・活動記録

香川県立高松高等学校2年 川淵 宥依

7月24日(日)

いよいよ今日の出発の日だ。とは言っても実際アメリカへ発つのは明日なのだが。出発式をして旅立ちにおける意気込みを言う。私のこの研修の目標は『民際化』。民際化とは国と国との繋がりである国際化に対応する言葉で、人と人との繋がりを表す。口に出すと目標を達成することの責任が増した気がした。全員で出発前の記念写真を撮った後、家族にハイタッチをしてお別れをし、母がくれた旅の安全を守るターコイズのネックレスをつけて搭乗口へ向かった。成田空港に着くとそこで夕食のたこ焼きを食べ、バスでホテルへ移動した。研修生3人で出発前の晩餐会をしようということになり、近藤さんと私の部屋で古市君と一緒にお菓子を広げ、夜遅くまで話し、トランプやUNOをしてはしゃいだ。みんな興奮していて眠気など全くなかったのだが気がつくともう12時半。ここで切り上げて明日に備えて寝ることにした。



高松空港にて

7月25日(月)

今朝の目覚めは良好。近藤さんと時間通りに引率の日野先生、古市君と集合し、ホテルで朝食を食べた。私が選んだのは向こうで恋しくなるであろう焼き魚と味噌汁。レストランには外国の人がたくさんいて、もうすでに自分は海外にいるのではないかと錯覚してしまうほどだった。食べ終えたらスーツケースを持って再び成田空港へ向かう。11時10分。とうとう日本を出発する時間がきた。どれほどこの日を待ち望んだことだろう。これから起こることへの期待とワクワクで私の心は高鳴っていた。長い長い飛行機の旅。経由地であるシカゴ空港に着き、ただひたすら睡魔と戦いながら6時間の乗り換え時間を過ごし、最終目的地であるタンパ空港行きの飛行機に乗る。乗った瞬間から寝てしまい、気が付くともうタンパ空港だった。やっとホストファミリーに会えると思うとちょっぴりドキドキ。飛行機を降りて見えたのは「Welcome to St.Petersburg: ようこそセント・ピーターズバーグへ」の文字とそのまわりで笑顔で手を振って待っている人達。私は走ってかけ寄り、ハグをして挨拶をした。そしてそれぞれのホストファミリーごとに空港を出た。私がお世話になるホストファミリーは4人家族で、ホストマザーのジュールズさんとホストブラザーのスカイラー、そしてホストシスターのインディゴとノエルだ。ジュールズさんはアーティストで主にセント・ピーターズバーグで活動している。9月から12歳のスカイラーは中学生になり、11歳のインディゴと7歳のノエルはそれぞれ6年生と2年生に進級するそうだ。ホストマザーのジュールズさんが海へ夕日を見に行こうと言うので空港を出てそのまま海へ向かった。車を降りた瞬間、私は目の前に広がる景色に目を奪われた。



サンセットビーチにて

今までに見たことのない、綺麗な夕日だった。ここはサンセットビーチと呼ばれているようだ。なんてぴったりの名前なのだろう。夕日を眺めた後、インディゴとノエル、スカイラーと一緒に砂浜で鬼ごっこやかくれんぼをした。「範囲は決めないけど、亀の卵があるところは走ったらだめだよ。」とスカイラーが教えてくれた。卵の周りは柵で保護してあり一目で分かった。そしてビーチレストランで夕食を食べ、次は砂で村を作って遊んだ。家や寺、プールや野球場など4人でたくさん作ったのだが、1番の大作はスカイラーの作った原子力発電所。原子力発電所を作るという発想の面白さに感心した。辺りは真っ暗になり、産卵で砂浜に上がってきた亀が歩きやすいように砂を平らな状態に戻してから家に帰った。スカイラーが私の部屋のある2階まで20kg以上もあるスーツケースを運んでくれた。この家族は今年で我々研修生を受入れて5年目らしいのだが、5年間ずっとスーツケース運びは自分の仕事なのだとスカイラーが胸を張って言った。なんて頼もしい12歳なのだろう。アメリカの男の子はみんなこんなにも頼もしいものなのかとスカイラーと同年の自分の弟と重ねて思った。そんなことを考えながら部屋に入ると、長旅で疲れきっていた私はすぐに寝てしまった。

7月26日(火)

今日は14時から市役所訪問、そして香川・高松についてのプレゼンテーションがあるとても大切な日。今日のために毎週末事前研修をしてきたと言っても過言ではない。14時まで時間があつたのでジュールズさんがガイドをしてくれながらドライブした。家を出て数分ほど行ったところの歩道脇にある50cm位のサイズの可愛くデザインされた木箱の前でジュールズさんは車を止めた。この箱は「little free library: 小さな無料図書館」と言って、要らなくなった本をそこに入れ、気に入った本がそこにあれば誰でも自由に持って帰れるというシステムのもの。木箱の前にはベンチもあり、その場で読むこともできる。これらは善意で作られ、



海辺でポーズ



Little Free Library

デザインも様々。セント・ピーターズバーグのあちらこちらに置いてある。是非高松にも取り入れたいと思った。海沿いでは運が良ければマナティーが見られるそうで5人で探したのだが、今日は幸運の女神様は私たちの味方ではなかったご様子。ノエルが道に落ちていた牡蠣は海に戻さなくてはいけないことを教えてくれた。昨日の亀のことといい、こちらの人たちは他の生き物との共存を大切にしている。スカイラーがマングローブの木に木登りを始め、インディゴが“Dear Yui, Welcome !! : ユイ、ようこそ!”と枝で

葉っぱに書いた手紙をくれた。そうこうしているうちに13時半になり、セント・ピーターズバーグ市役所に移動。市役所職員の方が市役所を案内してくれた。市役所は光がたくさん入る様に設計されており、とても明るかった。様々な役職の方と挨拶した。最も鮮明に覚えているのは印刷室を訪れた時のことだ。印刷係の方はとても気さくな方で丁寧に仕事について説明してくれた。印刷係には殆ど休日がないらしいのだが、「いつかまとまった休みが取れたら最初に高松に行きたい」と言ってくれて嬉しくなった。



市役所内にある印刷室

また市議会も見学した。議員が座る席に座らせてもらい、議員の気分を味わうことができた。市長の席が中央ではなく、端であったことに驚いた。残念ながらこの日は市長は不在だったが、副市長にお会いすることができ、挨拶をした。副市長さんは女性でとても笑顔の素敵な方だった。「セント・ピーターズバーグはいい所だから楽しんでね」と言って白い歯をキラリと輝かせて笑った。そしてやってきた香川・高松についてのプレゼンテーションの時間。副市長、



プレゼンテーションの様子

市議会議員、国際交流委員会、市役所職員の方などが集まった。私は庵治石とそれに関連付けてイサムノグチを紹介する。今までとは違う厳粛な雰囲気になり少し緊張した。欧米で主流である大理石とはまた違った、高松市が誇る庵治石の魅力が伝わればいいと思う。近藤さん、古市君がプレゼンテーションをしている間私は2人のプレゼンテーションの資料であるパンフレットを配る役割にまわった。聞いている1人1人にどうぞと渡していく。これが案外楽しかった。みなさんパン

フレットを手にとると「美しい」や「こんなものがあるのか」と思い思いの感想を言ってくれた。全員のプレゼンテーションが終わるとインディゴが良かったよとハグをしてくれ安堵した。何だか私のお姉さんのようだ。それから用意してあったクッキーを食べながら市議会の人々とお話をした。皆さんが良かったよ、面白かったよと言ってくれ、自信がついた。夕食は海辺の「Fresco」というレストランで食べた。ここはジュールズさん一家のお気に入りのレストランのひとつで、月に1回は必ず来るそうで店員さんとも友達のように仲が良い。テラス席のみのその店では心地よい海風に吹かれながらたくさんのことを話すことができた。ジュールズさん一家は5年前にここに引っ越してきたこと、子供達の学校での生活のこと。特に、スカイラーは芸術に特化した学校でジャズを勉強しているそうで、小・中学校と吹奏楽部でジャズが好きだった私はそのことについて語り合った。家に帰ってからはインディゴも好きだと言ったアメリカで有名なハンガーゲームという本の話で盛り上がった。どのシーンが好きかなどマニアックな話をキャーキャー言いながらする私達を見て、ジュールズさんは、ついていけないわ、と半分呆れたような感じで笑っていた。ホストファミリーのことを知れば知るほど距離が縮まった気がして嬉しくなった。

7月27日(水)



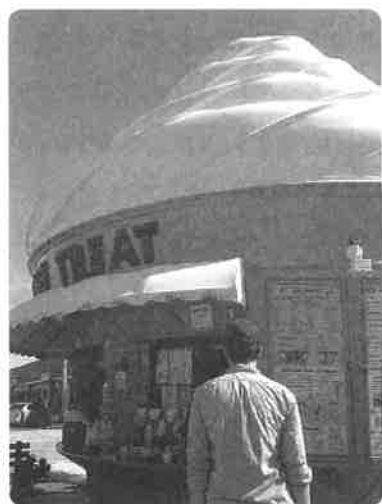
セント・ピーターズバーグ高校見学

私の1日は飼っている2匹の猫にインディゴが餌をやる音で始まる。まだ他の3人は寝ていたので、朝食にインディゴと2人でPBJと言うアメリカではとてもポピュラーなピーナッツバタージャムを塗ったサンドイッチを作った。ピーナッツバターをパンに塗ってからレンジで温め、ピーナッツバターを溶かして食べるのが最近のインディゴのお気に入りだそうで、一緒にあつあつでトロトロのPBJをハフハフ言わせながら頼張った。こういう日々の何気ない瞬間も特別に感じた。そのうち他の3人が起きてきて、準備をして家を出た。今日はセント・ピーターズバーグから高松に親善研修生として来ていた歴代の研修生4人とその友達2人が市内を案内してくれる日だ。まずはセント・ピーターズバーグ高校に行き、その学校の先生のガイド付きで中をぐるっと見学した。日本の高校とは違って、教室にたくさんの絵やポスターが貼られているところにアメリカらしさを感じた。夏休み中で生徒は誰もいないのかと思いきや、グラウンドでマーチングバンドがこの炎天下に練習していた。音楽系の部活には休みが殆どない。これは日本もアメリカも同じなのだと思った。自分自身も吹奏楽部でそのような経験したことがあったので妙に同情してしまった。次にセント・ピーターズバーグで一番大きいと言



マーチングバンド練習中

われている、昨年度の親善研修生のカタリナのお気に入りの本屋さんに行った。カタリナがおすすめの本をたくさん教えてくれ、私はその中の1つの彼女が大好きだと言った本を買った。そのあとアン



ソフトクリーム屋とウィリアム

ティークショップへ行き、カタリナがアルバイトしているスモーギーで有名なお店で昼食をとった。そして待ちに待った海へ。あたり一面の真っ白な砂浜と地平線の彼方まで広がる青い海。着いた日に見た海とはまた違うその海の景色に感嘆の声をあげた。40度近くまで気温が上がるセント・ピーターズバーグの海はお風呂のようだ。スカイラーが肩車をして相手を倒して遊ぶチキンファイトをしようと言い出した。古市君がスカイラーを、私がインディゴを肩車し、審判のノエルが見守る。途中作戦タイムを設け、白熱した戦いとなった。結果は2対1で私達のチームは負けてしまったが、とても楽しかった。その後近くのソフトクリーム屋で今年度の親善研修生のウィリアムがマンゴーソフトクリームを奢ってくれた。とても大きい。日本のソフトクリームの2倍以

上は確実にある。インディゴのレモンソフトクリームと半分こして食べた。夜はジュールズさんが David Matthew's Band というバンドのライブに連れて行ってくれた。2万人が集まる大きなライブで、観客のみんなは歌に合わせて踊ったりはしゃいだりしている。私とジュールズさんもみんなに混じって踊った。みんなクレイジーでしょとジュールズさんは笑う。普段触れることのできないアメリカの文化に触れた一日だったなあと今日を振り返って思った。

7月28日(木)

昨夜寝るのが遅かったため、目が覚めたら既に9時をまわっていた。急いで朝ごはんを食べ、集合場所へ向かった。ジュールズさんの家は街の中心地に位置するので大抵どこへ行くにもほんの数分で着くので助かった。今日はアートの街として有名なセント・ピーターズバーグ市内の芸術を堪能する日。まずは市街壁画鑑賞からスタートだ。現地で活躍しているアーティストの方のガイドを聞きながら、今回私達の研修を手配して下さったセント・ピーターズバーグ国際民族会のロッタさん、現地連絡員のプランタムラさんと一緒に見て回った。市内には至るところに壁画があり、色鮮やかな様々な壁画は道行く人々を楽しませてくれる。歩き進めていく度に新たな発見がある、そんなところが高松の瀬戸



お気に入りのサメの絵

内国際芸術祭に似ているなどと思った。描いてある絵に合わせてポーズをとり写真を撮った。私の一番のお気に入りはサメに食べられそうになっている写真。ひとしきり見て回り、「Acropolis」というギリシャ料理のレストランで昼食を食べた。それからバスに乗ってダリ美術館へ移動。ダリ美術館はとても個性的な外観をしている。海に面している美術館の正面は全面ガラスでできており、出航する船をイメージして設計されたようだ。ダリの絵にはそれぞれに深い意味があり、考えさせられるものばかり。絵に関する知識が浅い私には少し難しくもあったが、なかなか見ることのできない世界的に有名な画家の絵を目の当たりにして気持ちが高ぶった。館内に併設されたカフェでスカイラー、インディゴ、ノエルと一緒に黒のモールでヒゲを作った。ヒゲが特徴的なダリの真似をすることから始

まったのだが、だんだんとクリエイティブな髭に変化していき、みんなでお互いの顔を見合わせて大笑いした。17時半位に美術館を出て、またビーチへ。行く途中「Surf shop」という店に寄った。そこには水着や浮き輪などのビーチ関連商品はもちろん、アクセサリや人形も売ってあった。行く度に違う景色を見せてくれる海は毎日行っても飽きない。網とバケツを持って魚を探したのだが、一匹も見つからなかった。生き物を見つける運が無いのかもしれないとつくづく思った。



3人でヒゲ真似

7月29日(金)

朝起きてリビングに行くといンディゴが猫に餌をやるところだった。いつもは2匹いた猫が今朝はなぜか1匹だけ。もう1匹は外にいるようだ。一緒に猫が餌を食べるのを眺めながら、猫を飼うことになった経緯を聞いた。1匹は近所の人からもらい、もう1匹は弱っていた野良を引き取ったのだそうだ。こんなに大切にしてくれる家族に引き取られて幸せだね、私はそう言った。今日はセント・



新聞を配る少年の銅像

ピーターズバーグ歴史博物館へ。博物館の入り口前には、新聞紙を配っている男の子の銅像がある。案内役のおじさんにこの銅像の謂れを教えてもらった。昔、ある新聞会社の男の人がセント・ピーターズバーグ市が晴れの街であるということを証明するために、雨の降った日は新聞を無料で配り始めたそうだ。そして何十年もの間それを続け、無料で配った日の統計をした結果、なんと平均して1年たった5日だった。こうしてセント・ピーターズバーグ市は1年の内

360日晴れる、「晴れの街」だということが証明されたそうだ。博物館には本物のミイラやギネス記録を持つサイン入りの野球ボールの数々、そしてセント・ピーターズバーグの歴史を辿る展示品が置いてあった。ノエルが面白そうなものを見つけては、「ユイ！こっち、こっち！」と私を呼んで説明してくれた。お土産コーナーに売ってあったオレンジ味のガムを買い、地べたに座ってインディゴとノエルと分けた。日本ではあまり見かけないのだが、こちらの人はよく地べたに座る。私的には気楽で結構好きな習慣だ。その後カタリナの通うセント・ピーターズカレッジに行き、教室や図書館を見学。カタリナが先生に私達研修生を紹介してくれた。今回もそうだったのだが、どのお店やレストランに行っても、自分は高松から来たと言うと必ず皆さんが「Amazing! Welcome to S.Pete!: それは凄いな！セント・ピーターズバーグようこそ！」と言って歓迎してくれる。



茶道についての説明

それがとても嬉しかった。夕方からは今回の研修の重大任務の1つでもあるお茶会。近藤さんのホストファミリーのお家でさせていただいた。私達研修生3人は浴衣を着て挑んだ。みんなが真剣な眼差しで古市君のお点前を見つめている間、私は茶道の歴史やお点前の動きの意味、そしてお茶の飲み方を英語で説明する。この日のために茶道の本を読んで事前に勉強してきたため、スムーズに説明することができた。茶道を初めて経験した方も多かったようで、たくさんの質問が飛



日米変顔対決

び交った。例えば「何故飲む前に茶碗を回すのか」や「何故お菓子を先に食べるのか」と質問された。日本の茶道の精神を理解しやすく説明するのは難しかったが、納得してくれたようだった。ロッタさん曰く、アメリカで売っている抹茶と今回私達が点てた抹茶は色も風味も違うらしく、「本物を知ることができて良かった、貴重な体験だった」とみんな喜んでくれた。自分達によってみんなに伝統的な日本文化を知ってもらうことができたのだ。そう思うと嬉しくて達成感がこみ上げてきた。今日気付いた文化の違い、それは写真を撮る時に、アメリカ人は全身を使って表現するのに対し、日本人は顔だけで表現するという。これからは私もアメリカ式で撮ろうと思う。

7月30日(土)

今日はホストファミリーデーで18時からのバーベキューパーティー以外特に予定が無かったので、みんないつもより比較的遅く起き、のんびりとした朝の時間を過ごした。みんなで昨夜私が持って来た折紙の本を見ながら大量に作った紙飛行機の中から自分のお気に入りを入りを1つ決め、誰が1番遠くまで飛ばせられるか競争したりした。今晚のバーベキューパーティーに持っていくフルーツと肉や魚、野菜などを串刺しにして焼く中東料理のケバブの材料と私が明日作るお好み



スーパーマーケットに並ぶ野菜

焼きの材料のキャベツを買うため「Publix」というこの辺りで一番大きなスーパーマーケットに行った。入り口でまずカートの大きさに驚く。そして店に入って規模の大きさにも驚く。想像以上の大きさに呆気にとられた。私はフルーツと野菜の品揃えの良さに感動した。日本では、特にフルーツの種類が季節によって限られる。そこが匂を感じられて良かったりもするのだが、フルーツ大好きな私にとって、これでもかと言わんばかりに並ぶたくさんのフルーツにとっても魅力を感じた。奥に行くと日本食コーナーを発見。海苔が子供達の大好物なのだそう。みんなで豪快にどんどんと入れ、あの大きなカートがすぐにいっぱいになってしまった。レジではカートの中身をすべてコンベヤーの上に出さなければいけない。これは面倒だ。日本のスーパーのカゴのありがたさに初めて気が付いた。帰りがけ、ジュールズさんが描いたという市街壁画を見に行った。今まで見た壁画の中で一番好きだった。日本のみんなに写真を見せて、自分のホストマザーが描いたものだと思わせようと思う。高い所は梯子に登って描いたのだそう。想像するだけで足が震えそうになった。家に帰って牛肉・パイナップル・トマトのケバブの準備をして、パーティー会場のリンダさんのお家に急いだ。リンダさんはセント・ピーターズバーグ国際民族会のメンバーで、今回バーベキューパーティーを開いて下さった。会場には既に多くの人が来ていて、私は一人一人と話した。こっちに来てからどこへ行ったのか、何が一番気に入ったのかななどを質問された。誰と話しても、またセント・ピーターズバーグに戻ってきたいかと聞



ジュールズさんの描いた壁画



バーベキューパーティーにて

かれたので、その度に私はもちろん！今すぐにでも引っ越してきたいぐらいよ、と答えた。賑やかでかつのんびりとした街の雰囲気、明るい人々、アート、美しいビーチ…挙げだすとキリがないほど、私はセント・ピーターズバーグに魅せられていた。そう話すとみなさんが共感してくれた。思い返すと、その時話した人の殆どがセント・ピーターズバーグ市出身ではなかった。やはりここには人を惹きつける力があるのだろう。高松もそのような市にしたいと思った。ある程度食事が終わると、焼いたマシュマロをチョコレートとビスケットで挟んだスモアを子供達と作った。私がマシュマロを焦がすと、「まだまだだな、これにもコツがあるんだよ。」とにやりとしてノエルが言う。7歳の子に言われると

なんだかおかしくて、「私はお子様じゃないから焦げて苦いぐらいがちょうどいいんです！」と言いつつ2人で笑った。食べてみると香ばしくて美味しかった。お開きの時間となり、余ったフルーツとマシュマロを持って家に帰った。色々な人と交流が持てた有意義な一日となった。

7月31日(日)

今日の朝食は私お手製のお好み焼き。インディゴと即興で作ったお好み焼きの歌を歌いながら料理。猫達も持ってきた鱈節を食べ、初めての全員揃っての朝食となった。以前少しの間大阪に住んでいたことのあるジュールズさんにとっては懐かしい味だったようだ。地元の野球チーム、タンパベイ・レイズの試合をホストファミリーと見に行った。あまり野球のルールを知らない私には、試合をみるよりも、観戦している人達を見る方が面白かった。試合をそこまで熱心に見ている印象は受けず、むしろ殻を落としながらピーナッツを食べたり、歌ったり、そういう野球場の開放的な雰囲気を楽しんでいるように見えた。夕方からは今年度親善研修生として高松へ来ていたバネッサと映画を見に行った。上映の時間まで近くのスターバックスで色々なことを話しながら過ごした。バネッサは高松でトマトを食べてから、甘みのないアメリカのトマトが食べられなくなったそうだ。確かに日本の野菜は美味しい。アメリカのきゅうりは日本のものと違って大きくて水分が殆どなく、まるでズッキーニを食べているように感じられた。特にキュウリを食べた時にそう感じた。時計を見るともう1時間半も経っていた。スモールサイズと言うのに量の多いポップコーンを買っていざ映画館へ。飼い主が留守の間にペットが冒険をする物語で、とても理解しやすく、面白いストーリーだった。アメリカの人々は映画を見ている最中でも大きな声で笑う。これもまた文化の違いだろうか。



タンパベイレイズのキャラクターDJ
キティと

8月1日(月)

午前中はザ・ヴィノイ・ルネッサンスホテルを見学した。とても古く歴史のあるホテルで、第2次世界大戦の時は士官学校として使われていたそうだ。ホテルが大好きな弟を連れてきてあげたいと思った。メキシコ料理のレストランで昼食を食べた後、セント・ピーターズバーグ商工会議所へ向かった。商工会議所は私が想像していたのと違って若い方が多かった。こちらでは香川・高松についてのプレゼンテーションに加え

て高松商工会議所についても説明した。事前研修で高松の商工会議所に行き、様々な話を伺ったことをもとに、商工会議所の歴史や現在の香川県の経済状況についてのプレゼンテーションを作った。原稿見ながらではあったが、庵治石について堂々と話すことができた。「庵治石が外国ではドアストッパーに使われている」と説明するとどっと笑いが起きた。

みなさんが楽しんで聞いてくれていることが分かって嬉しくて私も笑ってしまった。終わってから、商工会議所の方からセント・ピーターズバーグは好きかと聞かれたので、ここに住みたい位好きだと答えた。すると商工会議所の方が、必ず戻っておいでね、ここで君の働く場所を用意しておくから、と言ってくれた。冗談だとしても嬉しかった。『Paris, London, Tokyo, St.Pete』と描かれたTシャツをプレゼントしてくれた。商工会議所を出る時、先程声を掛けてくれた方が「君とはさよならは言わないよ、また会うんだから。そのときは庵治石も一緒にね。」とウインクをして言った。それに対して私は「スーツケースの超過料金をくれるなら持ってくるよ。」と答え、握手をしてお別れした。とても素敵な方だった。夜はホストファミリーとビーチレストランに

行った。多分ビーチに行くのはこれで最後になるだろう。大好きなセント・ピーターズバーグの海をしっかりと目に焼き付けた。私は少食で普通の量は食べきれないので、毎日サラダだけを食べるようにしていたので、今日もサラダを注文した。どのレストランに行っても思ったことはサラダのメニューが豊富だったことだ。サラダといっても野菜だけが盛ってあるのではなく、肉やチーズもあり、一皿で栄養バランスのとれた食事ができる。日本を発つ前に、偏った食べものばかりでサラダなんてあまりないのではないかと心配していた私は、自分が大きな誤解をしていたことに気付いた。食べ終わると近くのプールで泳いだ。子供達は3人とも泳ぎが上手だ。海を中心に生活



歴史を学ぶ



ヴィノイホテル見学中



庵治石についてのプレゼンテーション

しているという位だから必然的に上手になるのかもしれないが、水深が2m以上あるプールでも余裕な様子だった。家に帰り、荷物のパッキングを始めた。日本に帰る日が近づいているという現実と向き合いたくない。そう思ってもその日はやってくるからどうしようもない。パッキングが大方終わったところでベッドに入った。

8月2日(火)

今日がホストファミリーと過ごせる最後の日。午前中はジュールズさんのアートギャラリーとサンケンガーデンに行った。サンケンガーデンにはたくさんの植物が植えてあり、まるでジャングルの様だった。高松から寄贈された植物も植えてあった。歴代の研修生が会っている喋るオウムのミンディーに会うことはできなかったが、代わりに今年来たフラミンゴの赤ちゃんを見ることはできた。フラミンゴの赤ちゃんの飼育にとってもお金がかかるようで、ジュールズさんはその赤ちゃんのために寄付したのだそうだ。ジュールズさんは動物愛護活動に積極的な方だ。車のナンバープレートも、払ったお金がイルカの保護に使われるものを選んで買ったらしい。自分も見習わなくてはと思った。夜はSPIFFS:セント・ピーターズバーグ国際民族会主催の送別会へ浴衣を着て行った。今回の研修に関わった方々がたくさ



サンケンガーデンにて



送別会にて国際的な1枚

ん来てくれていた。浴衣を着て行くとみなさんが美しいと褒めてくれた。浴衣についての質問をされたが、全く知らなかったので答えることができず、少し情けない思いをした。私達はホールのステージの上で3回目となるプレゼンテーションをした。様々な国の民族衣装を着た人達のパフォーマンスを見た。衣装も踊りも音楽も知らなかったものばかりで、他の国の伝統に触れるのは興味深いことだった。見終わるとそこで始まったのは写真撮影大会。北欧、ロシア、インド、ネパール、キューバ、チリなど各国の民族衣装を着た人達と写真を撮り、話した。セント・ピーターズバーグという一つの市のこの小さい建物の中で様々な国の人と会話をしているということに不思議な感じがした。そして各自持ち寄った多国籍な料理をバイキング形式で取って食べた。お世話になった方々とセント・ピーターズバーグでの思い出、学んだことを話し、挨拶をして21時頃家に帰った。帰国準備をしながら子供達と遊んだ。持ってきていた紙風船でラリーをしながら何回続けられるか挑戦したり、絵を描いて遊んだり最後の時間を目一杯楽しんだ。携帯の中のアルバムはホストファミリーとの写真で一杯になっていた。0時半になりジュールズさんにもう寝なさいと言われるまで遊び続けた。明日家を出るのは朝の4時半。確かにもう寝ないと明日起きられないね、とハグしておやすみを言った。

8月3日(水)

遂にやって来てしまったこの日。これほど時間が止まってほしいと願ったことはなかった。セント・ピーターズバーグ商工会議所で貰った服を着て、猫にさよならして家を出る。到着した日と同じ様にスカイラーがスーツケースを運んでくれた。スカイラーが見てと指差すその先には庭に植えてあるという花が咲いていた。この花は明け方にしか咲かないそうで、ラッキーだねと笑っていた。車に乗ってタンパ空港へ。帰りたくないのに刻々と搭乗時刻に近づいていく。とうとう



お別れのハグ

お別れの時間が来て、研修生とホストファミリー全員で写真を撮った。初めて会った日と同じように、でも真逆の気持ちでハグをする。ノエルが来年も頑張ってきてねと言う。何を頑張るのかよく分からなかったが、言ってくれる気持ちが嬉しかったので分かったと答えた。子供達の顔を見ると一緒に過ごした日々が思い出され、堪えていた涙が溢れ出てきた。ジュールズさんともハグをして、してもしきれない感謝の気持ちを伝えた。あなたのおかげで私の研修は特別なものになった、と。みんなが見えなくなるまで手を振り、ターミナルに移動する電車に乗った。1日1日が充実した12日間だったと思う。後はもう帰るのみ。来た時と同じようにシカゴを経由し、家族の待つ高松へ向かった。高松空港に着き、自分の荷物を取って真っ先に家族のいるところへ。久しぶりに家族の顔を見てなんだかほっとした。何はともあれ無事に帰って来れてよかった。これから少なくとも1週間は向こうでの思い出を話し続けるだろう。

感想文



人との繋がりがかた

香川県立高松高等学校 2年

川淵 宥依

今回の研修で私は多くのことを学びました。その中でも一番私に大きな影響を与えてくれたのは、人との繋がり方です。民際化という大きな目標を掲げたはいいものの、具体的に何をすればいいのか最初は分かりませんでした。しかし向こうで過ごしていくうちに、実は民際化はほんのわずかな意識改革で簡単にできることに気づきました。それは、積極的になるということです。積極的に話し、積極的に相手のことを知ろうとする。それだけで見えない境界線のようなものが消えてなくなり、相手との繋がりがより一層強まり、目標が達成できたという実感が湧きました。

それと同時に「もっと話したい」と思うようになり、私の英語に対する意欲が一段と増しました。また、自分の住んでいる場所をもっと説明できるようになりたいと思いました。セント・ピーターズバーグの人々はみなさん自分達の住んでいる街を誇りに思っていて、私にたくさんの良い所や観光地などを教えてくれました。日本や高松の魅力を伝えるためには、まず自分の住んでいる街を大好きになることが大切だということに気づきました。今後たくさん日本や高松のことについて学び、知識を身に付け、日本と外国の架け橋となれる人間になりたいと思います。

思い出がたくさん詰まったこの12日間は、他の何にも変えられない、かけがえのない一生の宝物となりました。これはホストファミリーをはじめ、セント・ピーターズバーグの人々が温かく私を受け入れてくれたからこそ得られたものです。そんな多くのことを得た私ができることは、自分がセント・ピーターズバーグで見たもの、聞いたもの、感じたこと全てを高松の人々に伝えることです。自分達の暮らしている高松はこんなに素敵なおとろと姉妹都市なのだということを知ってもらいたいです。そしてこの素晴らしい二都市の友好関係が恒久に続くように、また、今まで以上に繋がりを深めていくために、私だけでなく高松の全ての人に民際化を進めてほしいと強く願っています。

親善研修生 報告書 II

日誌・活動記録

高松市立高松第一高等学校2年 近藤 宏美

7月24日(日)

なんだかそわそわして落ち着かない。家を出るまであと1時間、荷造りもなんとか終わっておにぎりを食べていた。おにぎりももう、食べられなくなるなあ……そう思いながら食べ終わると、見送りに来れない祖父母に電話で出発の連絡をしたり、ペットのうさぎに別れを告げているうちに出発の時間になった。車中、緊張でいつもより口数多く両親に話しかけたら「少し落ち着きなさい」と窘められた。それもそうだ、冷静になろうと車の外をぼんやりと見る。空港に行く



出発前でみんな緊張気味

につれ田畑が増え見慣れたさぬき平野を通り過ぎていく。セント・ピーターズバーグはどんな風景なのかな……。まだ見ぬ土地に思いを馳せ高松空港に着いた。空港でチェックインや出発式を終え、写真を撮りパシャリ、パシャリ。こんな空港のど真ん中で撮影するなんて、なんだかアイドルみたいだねと笑った。みんなに笑顔で別れを告げ、搭乗。窓側の席からは綺麗な夕日の瀬戸内海が堪能できた。見送ってくれた両親に笑顔で「ただいま」と言えるよう12日間頑張ろうと思う。故郷の海にも挨拶をし、とりあえず東京に着くまで、ひと眠り……と思ったが機内が寒すぎて寝られなかった。19時過ぎ、成田到着。第3ターミナルのフードコートで夕食をとる。どうしようかなと散々迷った後、たこ焼きと大好物の餃子に決めた。ちなみにこのフードコートには、SUSHIBARなるものがあつた。カウンターで立ちながら寿司を食べるのお店だった。お客さんが外国人ばかりだった。彼らはここで日本に来て最初のSUSHIに出会うのだろうか。セント・ピーターズバーグ市で売られている寿司はどういうもので、和食への認識はどれくらいなんだろう。実際に現地の寿司が食べれたら面白いなあ。異国の食文化に興味があるのでアメリカでも何か学べればいいなと思う。ホテルに着いてこのままお風呂に入ってベッドへ直行、と思っていたが、研修生3人とも明日からのセント・ピーターズバーグ市での研修への期待で寝られなかったのでみんなでUNOやトランプをした。とても盛り上がったが、明日飛行機でどれくらい寝られるか分からないので体を休ませようと就寝した。

7月25日(月)

6時起床。朝ごはんはホテルのバイキング。洋食メニューも豊富だったが、向こうでは食べられないであろう和食を選んだ。成田空港へ移動し、経由地であるシカゴ空港へ飛び立った。飛行機は快適そのもの。大好きなディズニー映画をひたすら観た。映画を観た後は、5時間程ずっと寝ていた。機内アナウンスで起きたら、もうそこはアメリカだった。見事な碁盤の目のシカゴの街並みに感動しつつ、とてつもなく広いシカゴ空港に到着した。シカゴ空港のマクドナルドで間違えてチキンナゲット



和食としばしの別れ

を20個注文してしまった。twelveとtwentyを勘違いしてしまった。英語での注文は簡単な会話だけどやはり緊張する。アメリカの硬貨の見分けが難しくこの後の買い物は全てカードでした。その後乗り換えてタンパ空港に到着した。「Welcome to St. Petersburg」と書いた大きな紙が見えた。空港では研修生それぞれのホストファミリー、今回研修の手配をしてくださったセント・ピーターズバーグ国際民族会のロッタさん、現地連絡員のプランタムラさんが出迎えてくれた。そ

して待ちに待ったホストファミリーであるブラウン家と対面した。ブラウン家はホストファーザーのボジター、ホストマザーのシャロン、ホストブラザーのオースティン、ホストシスターのソフィア、そして犬のマディックスの4人と1匹。シャロンはカリブ海にあるキュラソー島の出身、ボジターは生まれも育ちもセント・ピーターズバーグ市の生粋の地元人だ。大学生のオースティンは普段は大学の寮に住んでいて週末には帰ってくるらしい。小学生のソフィアは9歳で水泳とダンスと「ハリーポッター」が大好きで明るく、末っ子の私には初めての「妹」という存在が嬉しかった。事前のメールでは連絡していたが、実際に会うのはこの時が初めてだったので感動もひとしおだった。ホストファミリーにハグしてもらい、空港を出発する。車中ではみんなから、私の部活や趣味等について色々な質問をされた。5年間培った英語力をフル回転させながらなんとか聞き取って答える。時に頓珍漢な答えを出すこともあったがホストマザーが「英語がとっても上手でびっくりした」と言ってくれたのでほっとした。ふと窓の外を見るとタンパ湾にはなんと、虹がかかっていた。ソフィア曰くこちらでは虹はよく見られるらしい。思いがけないドラマチックなスタートに不安な気持ちも吹き飛ぶ。ブラウン家到着。愛犬のマディックスが迎えてくれた。最初吠えられてしまい、犬には慣れていないのでちょっと怖かった。しかし数日後には懐いてくれたので良かった。ホストファミ



ホストシスターのソフィア



ブラウン家の愛犬マディックス

ミリーの家に無事到着したことを日本の家族へ連絡。せっかくなのでテレビ電話で両親にホストファミリーに挨拶してもらおう。両親は英語が喋れないので焦っていたが、通訳したので意思疎通はできたと思う。夕食は時間が遅くなったのですぐに食べれるピザになった。日本だったら輸入スーパーでしか見られないであろう特大サイズのピザが普通に出てきた。朝は和食、昼は機肉食、夜は特大ピザと系統の違う食事アメリカ1日目は閉じた。

8月26日(火)

夜中3時、目が覚める。どうやら時差ボケらしい。目が冴えて眠れないので日本からのメールに返信したりして眠くなるのを待った。再び起床は7時。よかった、目覚ましてセットした時間に起きられた。私は朝が非常に弱いので少し不安だったのだ。朝起きてすぐにホストファミリーに挨拶。ブラウン家は早起きでボジターは5時に起きて今はマディックスの散歩に行っているらしい。今日の予定は午後からの市役所訪問と夕食にホストファミリーに日本食を



筆ペンでお絵かきするソフィア

作ること。2日目から忙しくなりそうだ。みんなで朝食を食べ早速、ソフィアと遊んだ。私は今まで年下の子と遊んだ経験が殆どなく最初はどのようにしていいか分からなかったのだが、ソフィアが活発な子だったので安心した。2人でお絵かきをして遊んだ。私がお土産で持ってきたカラー筆ペンの使い方を説明すると早速色塗りを始めた。「いちいち筆を洗わなくていいから便利」と喜んでくれた。私も絵は得意なほうなので一緒描いた。アメリカの子供達が知っているキャラクターってなんだろうと悩んだ末、ディズニーのキャラクターを描く。ソフィアはディズニーが好きなのだそうで「このキャラクターを描いて」とお願いされた。10時になると夕食のための買い出しへ。アジア食材も売っているという大きなスーパーに行く。日本と比べて何もかも大きい。スーパーマーケットの規模もそうだが、カート、そして野菜のサイズだ。ピーマンは日本の2倍位のサイズだった。ちらし寿司を作る予定だったので生で食べられる魚はあるかと半信半疑で聞いてみたらあるらしいとのこと。しかもSASHIMIと書いてあった。日本食人気は認識していたがここまでとは思わなかった1人で感心しながらスーパーマーケットを後にする。午後からはセント・ピーターズバーグ市役所訪問だ。市役所は古くてそこかしこに装飾がしてある。また入るには手荷物検査がいる。他の部署の部屋も入るには



姉妹都市高松市の展示コーナー

カードが必要でセキュリティは万全なようだ。市役所職員のウェインさんによる市役所ツアーが始まった。全ての部署の部屋へ入るにもセキュリティのカードが必要だった。市役所の一角には高松市の紹介コーナーが設置されていた。讃岐かがり手まりや丸亀うちわ等が飾られていて50年以上続いた高松市とセント・ピーターズバーグ市の親交が感じられ、自分が親善研修生であることが誇らしいと感じた。市役所ツアーを終えていよいよ毎年恒例の香川・高松についての英語

でのプレゼンテーションが始まる。私達の発表に市議会議員、国際交流委員、市役所職員の方などが集まって下さった。私のテーマは「栗林公園と瀬戸内国際芸術祭」。セント・ピーターズバーグでは「アート」な市であることを推進している。高松市との共通点として興味を持ってくれそうだと思う瀬戸内国際芸術祭を、また私は日頃、栗林公園でボランティアガイドをしているので栗林公園を選ん



市役所でのプレゼンテーション

だ。ボランティアガイドの制服である法被を着て説明した。「これは栗林公園のボランティアガイドの制服です。」と見せるとかわいいと言って、みんなが笑ってくれた。栗林公園はその日の気候や季節で景色が変わるということを伝えようと四季の写真を見せると「Beautiful!」と言う言葉が聞こえてきて嬉しかった。また瀬戸内国際芸術祭については島と島を渡って作品を鑑賞するという独特の鑑賞スタイルにみなさん感心していた。自己評価は80点。次のプレゼンテーション

ではもっと良いものにしようと思った。市役所から帰ったらすぐに夕食の準備を開始した。今日のメニューはちらし寿司とから揚げ、味噌汁、焼き鳥、和風野菜炒めだ。私が寿司を作ると言うシャロンはとっても喜んでくれた。やはり、日本食の代名詞・寿司は人気なのか。日本からもってきた食材に料理好きのシャロンは興味津々だった。1時間程料理をして完成したところにボジターが帰宅したので、夕食を始めた。味見した時は美味しかったけれど大丈夫かな……とみんなの顔を見つめる。すると笑顔で美味しいと何回も連呼してくれた。ソフィアはから揚げ、ホストマザーはお味噌汁を気に入ったらしい。SUSHIレストランのお味噌汁よりも美味しいと言ってくれた。私が日本では焼き鳥とお酒の組み合わせが好まれていると言うと、早速ボジターは夕食後、ワインと焼き鳥を食べていた。焼き鳥がお酒に合うと思うのは万国共通らしい。料理は得意だけれどみんなの口に合うか心配だったのでよかった。やはり、自分が作ったものを美味しいと言ってくれるのは嬉しい。こうして、2日目は終了した。



頑張って作った和食の数々

7月27日(水)

今日はセント・ピーターズバーグ市を観光する。今年度、セント・ピーターズバーグから高松に来ていた親善研修生のヴァネッサとウィリアム、また歴代研修生のカタリナ、マヤとその友達が私達を案内してくれる。朝、カタリナが家に迎えに来てくれた。移動手段は何かと聞いたら彼女の車だという。アメリカの高校生は車を運転できるんだと改めてその時認識した。まずは市内にあるセント・ピーターズバーグ高校へ。2階建ての校舎で開放的な雰囲気だった。学校のシンボルである「グリーンデビル」というキャラクターが描かれた旗がそこかしこに飾られていた。高松市への親善派遣研修生の募集の張り紙がしてあった。一番興味深かったのは図書室で日本の漫画がたく



日本のマンガがずらり

さん置いてあったことだ。私の学校の図書室は漫画禁止なので羨ましかった。しかも種類も豊富で最近のものも多かった。英語翻訳の関係で新刊の漫画の発売がどうしても遅れるから残念だとウィリアムの友達が言っていた。私もこちらに来てからハリーポッター最新刊を買ったので彼の気持ちはよく分かる。その後市内で最も古い本屋の「ハスラム」へ。本以外にも筆記用具やポストカードなども売っていた。店には看板猫がいて、店員さんからえさを貰ってその猫にあげることができる。とても面白い場所だった。日本文化について書いた本が所狭しと並んでいた。その内容も歌川広重の浮世絵や武道、着物、茶道、詫び寂びについてなど幅広い。一番驚いたのが禅思想の本があることだった。高校の倫理の授業で、先生から今、欧米で禅思想が人気と聞いてはいたが驚いた。これはここでしか買えないと思ったので即購入した。他にも教科書で習った新渡戸稲造の「武士道」や岡倉天心の「茶の本」も買った。高かったけれど、満足のいく買い物だった。その後はセント・



本屋で見つけた浮世絵の本



セント・ピーターズバーグの美しい海岸

ピーターズバーグ自慢の海へ。白い砂浜と青い海が広がっている。もちろん、瀬戸内海と違って島は見えない。海水温が高く、まるで温泉にいるようだった。海で泳ぐのは数年ぶりだったのでとても楽しかった。一緒に来たカタリナ達はとても泳ぎが上手い。川淵さんのホストブラザーのスカイラーは中学生だけれど遊泳区域を示す棒の所までスイスイ泳いでいった。さすが地元の子供達、泳ぎ慣れているなと思った。今日は同世代の人達と親交を深めた日となった。

7月28日(木)

この日は少し寝坊してしまった。ホストファミリーは誰も気にしていなかったけれど反省。けれど、この家庭に馴染んできた証拠だろうかとも思った。朝食後、ホストマザー御用達のイタリアンスーパーマーケットへ。お店の壁面は遺跡のような建物や大理石の像が描かれていて、ここは本当にスーパーマーケットなんだろうかと思った。人気店なので人で溢れかえっていた。お土産として蜂蜜やオリーブオイルを試食して購入した。その後ダウンタウンへ行った。今日は市



スーパーマーケットとは思えない外観

街壁画とダリ美術館の見学。市街壁画というのはセント・ピーターズバーグがアートの街として今力を入れている事業らしい。町の建物の至る所に絵が描かれており、街がそのおかげでカラフルになっていて日本とは違う光景だ。街並みがカラフルだとその町の犯罪率が減るというのを、昔本で読んだ

ことがあったので感心した。その後は路面電車に乗ってダリ美術館へ移動。現地連絡員のプランタムラ・信子さんによる日本語ガイドつきでサルバドール・ダリの作品を鑑賞した。プランタムラさんのお話によると、この美術館はダリのスポンサーだった夫妻の手によって建てられ、比較的新しいらしい。言われてみればたしかに建物全体が近代的なデザインだった。一番初めに見た作品は教科書でも



ダリの髷のオブジェ

お馴染みの「記憶の固執の崩壊」。他にも美術の時間で習った作品が所狭しと並んでいた。私のダリについてのイメージは20世紀当時の現代アート作家というものだったが、意外にも歴史や宗教のテーマ作品もたくさんあり、ダリ自身も印象派など自分より前の世代に流行った技術を勉強していたらしい。やはり百聞は一見に如かず、実際に現地で見えてみないと知らないことはたくさんあった。美術館の外の庭園に行くとダリの作品に関連したオブジェがたくさん展示されている。

館内では彼の代名詞であるあの髷を真似できる黒色のワイヤーの入ったモールが配られており、みんなでそれを口元につけて外で遊んだ。土産物売り場ではダリグッズがたくさんあった。有名な「やわらかい時計」のオブジェや、ダリ髷の形の香水瓶などもあり飛ぶように売れていた。私も図録など数点購入してしまった。

7月29日(金)

今日はセント・ピーターズバーグ歴史博物館の見学。セント・ピーターズバーグの歴史を学んでみたいと思う。この博物館の目玉はなんといっても、ギネスブックにも認定された世界一の所有数を誇るサインボールだろう。ベープ・ルース、ジャッキー・ロビンソンなど世界中で有名な野球選手のサインボール写真が並べられていた。よく探してみるとイチロー選手のサインボールもあり、アメリカの野球には欠かせない人物なのと思った。野球選手以外にもオバマ大統領やハリウッド俳優などの有名人のサインボールもあった。予定ではその後エッカード大学に行く予定だったが当日になってセント・ピーターズバーグカレッジエイト高校に行くことになった。私の家では毎年エッカード大学からの留学生のホームビジットを受け入れているので訪問するのを楽しみにしていたので残念だった。セント・ピーターズバーグカレッジエイトは小さい学校で高校と大学が一緒になっている。図書館に行くと学生だけでなく地元の子どもから大人までが読書をしていた。これはいいことだと思った。



ギネスに認定

帰宅後には今日のビッグイベントが待っていた。今日は私が研修の12日間の中で一番楽しみにしていたお茶会なのである。私と古市君が茶道を習っていて、セント・ピーターズバーグの人に日本文化を体験して貰いたいと思い開催した。朝のうちに濾しておいた抹茶の粉を容器に入れ準備、お茶

会はとにかく準備が忙しい。私のホームステイの家で行うのでメンバーが集まったらすぐに開けるよう用意しておかなければならなかった。準備を終え浴衣にも着替えたところで研修生それぞれのホストファミリーやロッタさん、カタリナが到着した。お茶会の開始である。飾り棚の上を床の間に見立て茶会には欠かせない掛け軸とお花を用意した。掛け軸の言葉は「青雲高くして、海紺碧なり」。海の街セント・ピーターズバーグをイメージして書いてもらった。お花は私のホストマザーが庭で育てている菊などいろいろな花を生けた。私はお茶やお菓子を運ぶ全体的なサポート役、川淵さんは英語で茶道について説明、古市君はお茶を立てる



お茶会準備



浴衣でおもてなし

という役割分担を

した。賑やかな雰囲気の中お茶会がスタート、茶菓子として持ってきた和三盆は特に子供達に大人気ですぐに無くなってしまった。みんな、初めてみる古市君の茶道のお点前を食い入るように見つめている。「なぜ、その泡だて器（茶筌）でお茶を泡立てるの？」など日本人には考え付かない意外な質問もされた。初めて体験するインターナショナルな茶会はとても刺激的だった。

7月30日(土)

この日はオースティンとソフィアと一緒に買い物に行った。ブラウン家のすぐ隣にはショッピングモールがあり、買い物の時にとっても便利だ。スーパーマーケットと薬局、そしてペットショップに行った。夕方になるとセント・ピーターズバーグ国際交流委員会のメンバー、リンダさん宅でバーベキューパーティーが行われた。そこには高松のポスターが貼られていて、みなさんから高松についての質問をされた。子供達は家にあるツリーハウスで遊び、私達は現地の人たちと交流を深めた。パーティーの料理も美味しく、アメリカからしくマシュマロをたき火で焼いてみることに挑戦。マシュマロ自体が日本のより甘いのだがそれをチョコレートと一緒にクッキーに挟んで食べている周りの人たちに驚いた。アメリカ人は砂糖を取り過ぎとよく言うけれどこういうことかと納得した。



高松市のポスター

7月31日(日)



タンパベイ・レイズ試合観戦

今日はセント・ピーターズバーグに本拠地を置く野球チームタンパベイ・レイズの試合観戦だ。ホストマザーにプレゼントしてもらったタンパベイ・レイズのオリジナルのTシャツを着て応援した。会場でこれまたオリジナルリュックを貰い、地元の人気分になった。私は野球のルールがよく分からなかったので引率の日野先生に解説してもらいながら観戦。ルールが分からないながらも初めてのプロ野球観戦は面白かった。会場では売店で軽食を買ってそれを食べながらみんな応援しているようだ。野球観戦から帰るとソフィアと約束していたプール遊びをした。なんと、ブラウン家にはプールがあった。プールは10m位あって本格的だった。

水鉄砲で遊んだり二人で鰐の形をした浮き輪に乗ったりして楽しんだ。プールが家にあるっていいなあと思った。ブラウン家の日曜日は家の庭でバーベキューを家族で楽しむらしい。「クリスチャンだから家族と日曜日は大切にしなきゃね」と茶目っ気たっぷりにボジターが言っていた。みんなで焼いたチキンはジューシーでとっても美味しかった。途中で雨が降ってきたがあまり気にせず食べた。ブラウン家のこういう大らかなところが好きだ。



家のプールにて

8月1日(月)

セント・ピーターズバーグ市で過ごすのも残り2日。残りの少ない時間を大切にしなければという意識が湧いてきた。今日は市内の5つ星と評価されたホテル、ザ・ヴィノイ・ルネッサンスホテルの見学とセント・ピーターズバーグ商工会議所での香川・高松についてのプレゼンテーションである。セント・ピーターズバーグ市は海が綺麗で、一年中を通して気候も穏やかで暖かいので観光には



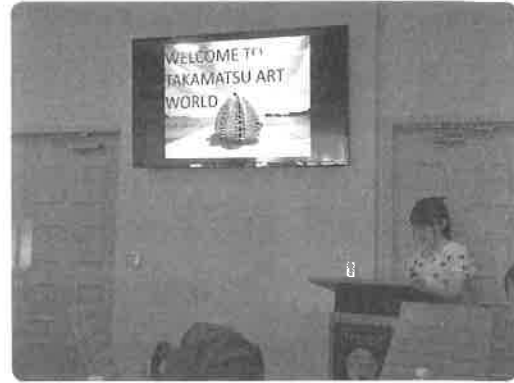
ヴィノイホテルを見学

適している場所だ。ザ・ヴィノイ・ルネッサンスホテルはなんと日本の大正時代からあるらしい、だから全ての部屋が歴史を感じさせていた。装飾品も細やかな細工が施されていた。今ちょうど、ニューヨーク・ヤンキースの選手がタンパベイ・レイズとの試合で泊まっているそうで、野球選手らしい人を探したが見つからなかった。有名なガラス彫刻家のチフリーの作品が展示してあったりと、この市の宣伝もしっかりしている。チフリーの美術館は市内にあり、大変人気であ

る。もう一度、セント・ピーターズバーグに来るならここに泊まりたいね、とみんなで話した。その後、セント・ピーターズバーグ商工会議所を訪問した。事前研修で高松商工会議所を見学していたので、セント・ピーターズバーグ商工会議所は高松よりこじんまりしていて、全体的に若い人が働いている印象を受けた。ここでも会議所でもプレゼンテーションをする。先日の市役所での反省を生かして挑んだ。プレゼンテーションの後、商工会議所のみなさんから栗

林公園のボランティアガイドの活動について、初めてアメリカに来たのかという質問に答えた。少し変な回答をしてしまった箇所もあるが、自分から積極的に答えられたことは良かった。その後はアジア

ンスーパーマーケットで買い物をした。翌日の送別会に日本食を作って持って行きたかったのですが、材料の買い出しをした。古市君がうどんについてプレゼンテーションをしたのを見てソフィアが食べたいと言ったので手軽なインスタントのうどんも買った。客も店員もアジア人ばかりで少し懐かしくなる。みんな、故郷の味を求めてくるのだろうか、私も外国に住んでいたらそう思うかもしれない。基本は中国の食品が置いてあるのだが日本の物もちらほらあった。わさび、日本米、てんぷら粉、せんべいなど、どれも英語版に直されているのが面白い。日本で食べたおにぎりが美味しかったと言ったカタリナの言葉を思い出したのでおにぎりも作ろうと思う。みんな美味しいと言ってくれるといいなあ。



瀬戸内国際芸術祭を説明



スーパーマーケットで発見

8月2日(火)

いよいよ、こちらで過ごす最終日。日本に帰るのが嬉しいような悲しいような気がした。朝、ソフィアとテレビゲームをして遊んだ。日本のゲームはアメリカでも大人気だ。私も子供の頃よく遊んだ機種だったので操作出来た。ソフィアはかなりゲームが強い。大体のゲームで負けてしまった。その後、サンケンガーデンに行った。ここは市民の憩いの場である植物園だ。湿地帯で暖かいフロリダらしく南国の植物がたくさん植えてある。ガーデニングが趣味のシャロンはとっても楽しそうだった。お土産物屋さんでは少し家族のための土産を買う。そのあと、地元で人気のチキンバーガーの店に行った。確かに美味しい、店内が混雑していたのも納得の美味しさだった。帰り道、ソフィアがこっそり「宏美が作ってくれたから揚げのほうが美味しい。」と言ってくれて嬉しかった。帰宅後、早速送別会のための日本食に取り掛かった。メニューはカタリナが好きと言っていた



シャロンとサンケンガーデンにて

おにぎり、照り焼きチキンにコロッケだ。どれも外国人の方が好むメニューと言うし、私も英語で説明がし易いメニューである。なんとか完成して送別会へ。SPIFFS：セント・ピーターズバーグ国際民族会の方が主催してくださったので世界各国の人が集まっていたとても華やかな雰囲気だった。ここでも私達はプレゼンテーションを行った。3回目ともなると慣れてきて時々アドリブを交えて話せた。時間の都合上、質問タイムは無かったが、全員がとても大きな拍手をしてくれて嬉しかった。そ



多国籍な料理が並ぶ

の後ロシアとドミニカの民族舞踊のパフォーマンスが行われた。どちらも衣装も美しく素敵に踊りだった。アメリカに来てアメリカ以外の国の民族舞踊が見れると思ってもみななかった。スコットランド、インド、ネパール、ブラジル等テレビでしか見たことのない衣装ばかりだ。私も浴衣を着て会場に行った。カメラマンの人にたくさん写真を撮ってもらってちょっとしたアイドル気分。インド人の女性にサリーの着方を教えてもらったり、ドミニカ人の女性からドミニカの観光冊

子を貰ったり、またドミニカでとても有名な日本人を教えてもらったりと国際交流パーティーならではの会話が繰り返された。みんなとの談笑は楽しく、ごはんも美味しかった。ちなみに私の料理は全て売り切れるほど、人気だった。特にコロッケが私の予想通り人気だった。楽しい時間を過ごしていると、みんなと別れて日本に帰るのは嫌だなあ、寂しいなと思った。帰り際になるとみんな、お別れの言葉を掛けてくれた。特にプランタムラさんは「See you again：またきっと会えるわ」ととびっきりの笑顔で言ってくれた。私も笑顔でお別れを言い、ホストファミリーと最後の夜を過ごした。



様々な人々との出会い

8月3日(水)

今日は朝が早く、起床は4時。昨日ソフィアに貰ったプレスレットとタンパベイ・レイズのリュックサック、セント・ピーターズバーグ商工会議所の方に頂いた地元の方に人気のTシャツを身に着けて出発しようと思う。飛行機の時間が朝の6時過ぎと早いため、急いで朝食を食べて家を出た。愛犬のマディックスが悲しそうに後をついてくるが車に乗せられないのでここで別れ。思う存分、撫でてバイバイと言った。セント・ピーターズバーグからタンパ空港まではタンパ湾をまたいだ一本の道で繋がっていてそこから行くのが一番の近道らしい。海に囲まれた道は朝日に当たってとてもきれいで瀬戸大橋から見る瀬戸内海を思い出した。正直、まだ高松に帰りたくなかった。ソフィアともっと遊びたいし、同世代のカタリナ達とももっと交流を図りたい、まだ行けてないセント・ピーターズバーグの名所もあるだろう。地元の人たちはみんな、いい人達ばかりでサンシャインシティに相応しく太陽のように元気いっぱいである。タンパ空港に着いてゲートを通るとき思い出がドッと溢れて涙が止まらなかった。ホストマザーも涙を流しながら強く抱きしめてくれる。その後、ブラウ

ン家と4人で写真を撮った。考えてみればこれが4人で撮る最初の写真だった。昨日プランタムラさんが言っていた言葉を貰って、最後に「See you again」とお世話になった人達に伝えた。

8月4日(木)

正直、今が8月3日なのか4日なのかがわからない。飛行機に15時間乗っていたのと時差があるのでセント・ピーターズバーグを離れて丸一日経ったはずなのに数時間前のようにも感じた。見慣れた高松空港に着くと、讃岐弁がどこからともなく聞こえてきた。家族がもう迎えに来てくれていた。久しぶりに見る家族の顔にどことなく安心する。話したいことがたくさんありすぎてまとまらない、家に着くまでの車の中で内容を考えるか。



家族写真

感想文



国際交流って楽しい？難しい？

高松市立高松第一高等学校2年
近藤 宏美

私が12日間の経験の中で一番楽しみだったのは現地でのお茶会だった。そして、このお茶会が一番私にとって学ぶことが多かった。

最近では日本各地に外国人観光客向けに日本文化体験の教室がある。セント・ピーターズバーグの人達にもそれらの教室のように楽しく日本文化を体験して貰いたかったので計画した企画だった。しかし、いざやってみると外国人に自国の文化を伝えることの大変さがよく分かった。日本人なら誰もが知っていることを、異国で分かり易く説明すること、彼らにとって未知な世界である茶道をいかに魅力的に見せるか。この二点が私にとってとても難しかった。

私は将来、日本文化を海外に紹介する仕事に就きたいと思っている。英語さえ話せば簡単にできる世界でない、自分の文化に対する知識が不可欠だとこの体験で気づかされた。巷にあふれる異文化体験の教室は一見すると楽しそうだが、実はその楽しさの裏側にはとんでもない努力と能力が必要なのだ分かった。よく国際交流では自国の文化を知っておかなければいけないというが全くその通りだ。

しかしこれとは逆に国際交流の楽しさも再認識することができた。異文化に触れることは簡単なことではないけれど、そのおかげで自分の伝えたいことが相手にきちんと伝わった時の感動や、自分の耳で地元の人達から話を聞く面白さはより大きくなると思う。

セント・ピーターズバーグで得たこの経験を少しでも周りの高松市の人々と共有していきたい。それが親善研修生として出来ることであり、姉妹都市の関係をもっと親密にするための策だと思う。これからも積極的に異文化交流に取り組んでいきたい。

親善研修生 報告書 Ⅲ

日誌・活動記録

香川県立三木高等学校1年 古市 一真

7月24日(日)

今日はお出立の日なのだと思うと朝からワクワクしてしまいました。昼間は何も手につかず荷物の最終チェックをして夕方ごろ高松空港へ向かった。出発式で一人ずつ現地でしたいこと、頑張りたいことなどの決意表明をした後、成田空港へ飛んだ。機内は思ったよりも寒く、長袖を着れば良かったと思った。空港では晩ご飯に香川県民らしくうどんを食べた。ホテルでは一人部屋で落ち着かず、同じく研修生の川淵さんと近藤さんの部屋でトランプやUNOをした。午前1時にはベッドに入った。



いよいよ出発

7月25日(月)

7時にドアをノックする音で目が覚めた。急いで着替えて朝食をとるためにホテルのレストランへ向かった。朝からがっつりカレーやパスタを食べた。ホテルから成田空港へ移動して、出国審査を済ませるとたくさんの外国人とすれ違った。自分がいよいよ海外へ行くんだという実感がわいてきた。成田から経由地のシカゴまで12時間。機内では映画を見たりしたがやっぱり退屈だった。あまり眠れないままシカゴ空港へ到着。腹ごしらえしようとマクドナルドに行った。注文する時、店員さんの話す英語のスピードが想像以上に早かったため、上手く会話することが出来なかった。アメリカに来て



リビングの様子

早々に、私の「何とかなるだろう」という安易で甘い考えは打ち砕かれ、もっとしっかり頑張ろうと気を引き締めた。最終目的地であるタンパ空港では、それぞれのホストファミリーの方が私達を迎えてくれた。私のホストファーザーのローレンさんとホストマザーのジャッキーさんは用事があって来られず、ペンカさんという方が代わりに来てくれた。他のホストファミリーと挨拶を済ませ、ペンカさんの車でホストファミリーの家まで送ってもらった。途中、タンパ湾をまた

ぐ橋を通った時、タンパ湾とそこに沈む太陽を見た。私が見とれているとペンカさんが「きれいでしょ、私はこの景色が大好きなのよ。」と教えてくれた。こんなにきれいなサンセットをいつも見られるなんてここに住んでいる人はいいなと思った。ペンカさんは私のホストファミリーのことやセント・ピーターズバーグ市のことなど色々なことを教えてくれた。そして私の笑顔が素敵だと褒め

てくれた。自分が好意的に受け入れられているのを感じ、嬉しくて安心した。私がお世話になるルーター夫妻はセント・ピーターズバーグ市から西へ少し離れたトレジャーアイランドという場所でビー



ご機嫌なローレンさん

チのすぐ近くのマンションに住んでいる。ペンカさんによるとホストマザーのジャッキーさんは写真家、ホストファーザーのローレンさんはなんとFBIに勤めているらしく、海外からの研修生の受け入れは私が初めてらしい。マンションに着くとジャッキーさんがエレベーターで降りてきて出迎えてくれた。ローレンさんは笑顔で「はじめまして、よく来たね。」と言ってくれた。部屋はどの部屋も広くきれいで高級ホテルみたいだった。最上階なので見晴らしも良く窓からはビー

チが見え、まさにフロリダという感じだ。荷物を整理していると夕食を食べに行こうと言われ「VIP」というメキシコ料理店へ連れて行ってくれた。ローレンさんのお気に入りの店らしいがジャッキーさんは油っこい料理ばかりなのであまり好きではないらしい。なるほどローレンさんのお腹はジャッキーさんが「バルーン」とからかう程立派だった。夜の22時位になるのに店にはたくさんの客がいて私と同世代の子供もいたので驚いた。私はローレンさんおすすめのエビと牛肉と鶏肉のタコスセットを頼んだ。タコスはあまり食べたことがなかったけれど、最高に美味しくペロリと食べてしまった。ローレンさんが注文したハンバーガーは、日本と比べるとパンも肉も2倍近く大きく、少し食べさせてもらうと日本と違い肉にはかなりの弾力と厚みがあった。味は日本よりもスパイシーで美味しかった。24時近くに店を出て家に帰り、シャワーを浴びて寝た。

7月26日(火)

朝6時に起きてキッチンで朝ごはんを食べた。メニューは、目玉焼き2個とパン1枚とコーヒーで、リビングの海が見える席で食べた。太陽の光を反射してキラキラ輝いていてとてもきれいだった。今日は何かいいいことが起こりそうな気がした。食べ終わるとジャッキーさんと色んな話をした。彼女がペルー出身で日本に留学していたので日本語を少し話せること。ローレンさんと夫婦であるが子供がいないこと。英語・日本語・スペイン語の3か国語が話



私のホストファミリー

せることやそれぞれのお国柄などを教えてくれた。また私が、海を見ていると、ここには頻繁にイルカが現れるということを教えてくれ、私が帰るまでに見られたらいいなあと思った。バルコニーに出るとトレジャーアイランドを見渡すことができとても美しかった。今日はセント・ピーターズバーグ市役所を訪問する日だ。15時に市役所に集合だったが、トレジャーアイランドは、市の中心部から少し離れたところにあり時間が掛かる為14時20分に出発した。しかし、道路が空いていたこともあり14時45分と少し早めに着いてしまった。そこで、ジャッキーさんにセント・ピーターズバーグ市内を少

し案内してもらった。全員集合すると、市役所の職員の方に市役所の建物を案内してもらった。建物の歴史についてや、細かい装飾にも意味があるということが分かり、とても興味深かった。また、市議会の議場見学をした際には実際に議員の座る席にも座らせて貰い、貴重な体験になった。市役所の人々は、笑顔で挨拶をして握手もしてくれた。とてもフレンドリーな印象を受けた。そしていよいよ本日の最大のミッションともいえる香川・高松についてのプレゼンテーションをした。セント・ピーターズバーグ市副市長、市議会議員、市役所職員、国際交流委員会のメンバーの方が参加して下さった。私は高松の「食」をテーマとして、大きく分けて果物・オリーブ飼料を使用した畜産・水産物・うどんの3つについて説明した。最初に高松の食材についての資料を配り、事前研修で作った資料を使って発表した。たくさんの方がいて緊張してしまい、日本で練習していたにも関わらず発音を間違えたり、単語を読み飛ばしそうになった。でも最後はみんな「とてもよかったよ」と褒めてくれ、高松に興味を持ってくれたようにも見え嬉しかった。帰りはジャッキーさんをお願いして、車の屋根を開けてオープンカーにして帰った。走ると風が直に来てとても涼しかったが、信号で止まると強い日差しによってとても暑くなり途中で元に戻してもらった。帰る途中、スーパーマーケットに寄った。私がここで驚いたことは、野菜や果物の品揃えは日本のスーパーマーケットと殆ど変わらないことだった。珍しい食材に期待していた私にとっては少しがっかりだった。うどんやインスタントの味噌汁・豆腐・インスタントラーメンなどの日本食も充実していたのでびっくりした。ショッピングカートは日本のものより大きく、レジカウンターに商品を置くとベルトコンベアでチェッカーの人の所に流れていくシステムだった。家に帰り夕食作りを手伝った。今日の夕食



市役所見学

は焼魚にご飯・味噌汁・冷奴で、完全な日本食だった。まさかアメリカで日本食を食べられるとは思っていませんでしたが、とても美味しかったです。食後にホストファミリーに日本から持ってきたお土産を渡した。私はたくさん持って行ったので、ローレンさんが「これを全部くれるのか」とびっくりした様子だった。ローレンさんはオリーブで染色したキーケース、ジャッキーさんは漆の器とトトロのキーホルダーが気に入ったようだった。



オープンカーに乗って

7月27日(水)

今日はジャッキーさんの大きなくしゃみで目が覚めた。朝食を済ませ、出発までに少し時間があったので、ジャッキーさんに私の家や家族・友達の写真を見せた。電車や街並みの写真も見せると日本にいた時のことを思い出したようだった。そして、「私はペルー出身だけど、日本も私にとっては故郷だし、今住んでいるアメリカも大好きなの」と教えてくれ、3か国に住んだことのあるジャッキー



クーラー完備の体育館

教師になって、子供達に音楽を教えたいと本当に楽しそうに話してくれた。私は、音楽は正直得意な方ではないが、彼女の授業はなんだか楽しそうな感じがした。しばらくして全員揃ったので、セント・ピーターズバーグ高校を見学した。セント・ピーターズバーグ高校には自分の高校と比べてみて違う点がたくさんあった。植物が多いことや、体育館に至るまですべての教室にクーラーが完備されていた。このような環境なら皆リラックスして授業を受けることができそうだなと思った。また、専用のサッカーコートやラグビーコート、コンサートホールのようなものまであった。土足で校舎に入っているため校舎がずいぶん汚れていた。また、学校に警察官がいる



不思議な味のアサイーボウル

ことや、車で通学する生徒の為に駐車場があり驚いた。その後、ウィリアム達に本屋や洋服屋に連れて行ってもらう昼ご飯を食べた。昼ご飯と言ってもデザートのようなものだった。アサイーボウルと言うらしいがとても不思議な味だった。それからセント・ピートビーチに行った。私は水着を忘れて



ビーチでみんなと

しまったのでウィリアムに貸してもらった。しかし、ウィリアムの水着はアメリカサイズで大きく、一番きつく締めても少し余裕があるくらい大きかったので脱げはしないか心配だった。しばらく泳いでいると足に何か当たったので拾ってみるとサンゴのような白い石だった。昨年度親善研修生だったカタリナに聞いてみると牡蠣の貝殻とサンゴが合体したものなのだと教えてくれ、香川では手に入れることが出来ないの嬉しかった。川淵さんのホストブラザーのスカイラーにチキンファイトをしようと言われたのでみんなでやった。最初はなんのことか分からなかったが、日本の騎馬戦と同じ遊びだった。スカイラーは妹たちに全く容赦せず、突き落としていてびっくりした。海で遊んでいたのだから落ちて痛くは無いようだった。その後はアイスクリーム屋へ行った。私はビーチ味を頼んで食べていたが、スカイラーが自分のレモン味を分けてくれたので私も分けてあげた。食べ終わると彼が今夢中になっているという携帯ゲームについての話を熱心にしてくれた。今日1日

で、スカイラーや他の人との距離が縮まったような気がして嬉しかった。

7月28日(木)

いつもより少し早く起きた。窓の外を見ると朝の6時にも関わらずマリンスポーツを楽しんでいる人達が見えた。私の住んでいるところでは見られない開放的な光景で私は今アメリカにいるのだとしみじみと思った。朝ごはんを食べ、ジャッキーさんにダウンタウンの集合場所に送ってもらった。みんな揃うと市街壁画巡りが始まった。ダウンタウンは何度か車で通ったことがあり、壁画も見たが、きちんと案内してもらいながら見て回ると壁画が日常風景に自然に溶け込んでい



開放的な光景

るので分からなかったが、実はたくさんの絵があるということに気が付いた。また全ての絵はそれぞれ独特な特徴や意味を持っていることも分かった。それは、これらの絵を描いたアーティストたちの個性そのものなのだろうと思った。絵は主に裏道や細い道に多く、遠くからみた町並みと絵が調和した風景が昔私が持っていたアメリカの本に載っていた写真にそっくりで感動した。昼食は「Acropolis」というギリシャ料理店で食べた。たくさんの人が集まっていて楽しい雰囲気だった。私は、ジンジャーチキンを頼んだ。名前の通り生姜と鶏肉を焼いたものとサラダがセットになったものだったが、鶏肉は胸肉だったためパサパサでむせそうだった。日本と違いヘルシー志向で鶏肉料理を注文すれば胸肉が出てきたが、正直私はもも肉のほうが良かった。食事を終えるとダリ美術館へ向かうためバス停へ向かった。しばらく待つと黄色いバスがやってきた。座席は木製で表面にコーティングをしていてツルツルだったため、カーブの度に滑り落ちそうになった。また、運転手さんが乗客たちに話し掛けていた。ここに来てたくさんの人と出会ったが、みんな初対面でも笑顔で気さくに話しかけてくれ、アメリカ人はフレンドリーな国民性なのだと思う。ダリ美術館は、海のすぐ近くにあ



街に溶け込む壁画

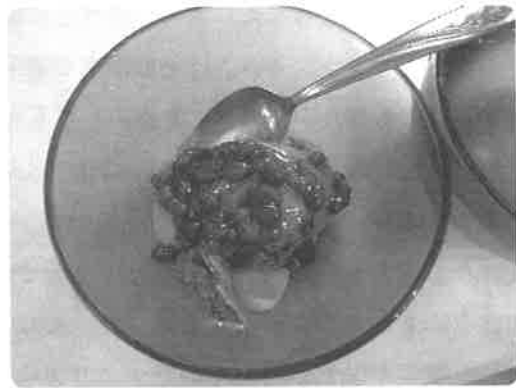
り、建物にはガラスが多く使われていて、美術館自体がアートの様だった。現地連絡員のプランタムラさんのガイドで館内を見学した。中学校でサルバドル・ダリとその作品について勉強していたが、実際に見てみると新たな発見をすることが多く、楽しかった。また、ダリはだまし絵のような絵や自分の心情を表現した絵を多く描いていて、解説をしてもらいながら見ることでよく分かり、ダリについてより興味が湧いた。時間の都合上全ての絵を見ることが出来なかつたので、いつかもう一度来ると心の中で決めた。お土産を買い、ジャッキーさんの車で帰った。その途中でジャッキーさんがよく行くという「Publix」というスーパーマーケットに寄ってもらった。今日は私が晩ご飯を作ると宣言していたのでその材料を買うためだ。親子丼を作るつもりなので、玉ねぎ・卵・鶏肉を買った。家に帰り、日本で練習したように作った。夕食までに時間があつたので、マ

たので、いつかもう一度来ると心の中で決めた。お土産を買い、ジャッキーさんの車で帰った。その途中でジャッキーさんがよく行くという「Publix」というスーパーマーケットに寄ってもらった。今日は私が晩ご飯を作ると宣言していたのでその材料を買うためだ。親子丼を作るつもりなので、玉ねぎ・卵・鶏肉を買った。家に帰り、日本で練習したように作った。夕食までに時間があつたので、マ

ンションのプールで泳いだ。しばらくしているとジャッキーさんとローレンさんも来て3人でバレーボールをした。ローレンさんはダイエット中だったのでいい運動になったようだった。家に戻り日本から持ってきたレトルトご飯に作った親子丼の具と鰹節をのせて、二人に食べてもらった。ローレンさんは鰹節が嫌いなようで避けていたが、親子丼は美味しいと言ってくれた。私が親子丼食べ終わるとすぐにデザート作りに取り掛かった。手作りの抹茶アイスと白玉団子と小豆を合わせたものを作ったがこれも好評であった。ジャッキーさんは日本に住んでいたの日本食にも馴染があるので大丈夫だと思っていたが、ローレンさんの口には合うかどうか心配だった。二人共喜んでくれて嬉しかった。



好評だった親子丼



手作りの抹茶デザート

7月29日(金)



セント・ピーターズバーグ歴史博物館

今日はセント・ピーターズバーグ歴史博物館へ行った。そこにはセント・ピーターズバーグの歴史はもちろん飛行機の歴史を学ぶコーナーや、アメリカメジャーリーグの選手のサインボールを集めた展示コーナーなど興味深いものもあった。一番興味を持ったのはミイラだった。最初はレプリカだと思っていたが本物だと聞いてびっくりした。しかし、本物のミイラを間近で見ることができて楽しかった。お土産コーナーにワニ肉のお菓子があったので友達に買うことにし

た。博物館を出るころに雨が降り始めた。こちらに来て初めての雨だった。その後カタリナの母校であるセント・ピーターズカレッジイト高校を見学した。教室はとてもきれいで、職員の方はみんな親切だった。昼食はトレジャーアイランドにある「The hut bar and grill」でとった。私はスカイラーお勧めのハンバーガーを頼んだ。料理が来るまで時間があつたのでみんなとタフィーというアメリカのお菓子の店に行った。味見させてもらおうとチューイングキャンディ



ミイラと

みたいで美味しかった。たくさん種類があり迷ったのでスカイラーに適当に選んでもらった。量り売りで大量に買ったので思ったより高かったが楽しい買い物になった。席に戻るとすぐに料理がきた。注文したハンバーガーはやはりアメリカサイズでとても大きかったがお腹が空いていた為、難なく食べることが出来た。18時から近藤さんのホストファミリーのブラウンさんのお家で研修生3人それぞれのホストファミリーを招いてお茶会をした。私は両親の影響もあり、



お菓子屋さんでスカイラーと

茶道をしている為、是非日本の文化である茶道を現地のの人に知ってもらいたかった。川淵さんが全体の進行役の亭主役、近藤さんが進行補助である半東兼お茶のお運び役、私はお点前をした。3人とも

浴衣を着てそれぞれ一生懸命おもてなしした。お盆点前をしているとふくさ捌きにみんな興味があるようで見入っているのが分かった。みんなに見られて緊張したが、気持ちを落ち着け、間違いのないように点前に集中した。アメリカの人達にとって抹茶は苦く、あまり飲みなれないものだったと思うがみんな、和三盆と一緒に茶も全部飲んでくれたのでとても嬉しかった。最後に茶道についてたくさん質問してきたが、私は勉強不足できちんと答えることができなかった。もっと勉強してくるべきだったと今さらながら後悔した。だが、みんなふくさ捌きが印象的だったよう



お点前をする私

でたくさん褒めて頂いた。他国の文化を知ること、そして自らの伝統文化を披露して教えるということはこんなにも楽しいものなのだと学んだ。

7月30日(土)

今日はホストファミリーデーでローレンさんがボートで海を見せてくれる予定だったが、起きると曇りで少し雨が降っていた。晴れるのを待つまで「Surf Style」というお土産屋へ行った。ここにはトレジャーアイランド限定のお土産もあるのでTシャツとイルカの置物を買った。家に戻るとちょうど晴れたので、ボートに乗るため船着き場へ行った。ワクワクしながら果物や水、双眼鏡などを持って出発した。海へ出るまでは両岸に家がある所を通った。速度制限があるためとてもノロノロ進んでいたが、じっくりとアメリカの住宅を観察することが出来た。気が付いたのは平屋建ての家が多いこと、プールがほとんどの家にあり緑が多いこと、そして海に面しているトレジャーアイランドならではの思うが、各家にボートを停めるための桟橋があるということだ。たくさん家が大きなボートや水上バイクを持っているのが見え、うらやましく感じた。住宅街を抜け海に出るとローレンさんは船のス



お土産屋さんにて

ピードを最大にした。きちんと座っていないと振り落とされそうになるほど速かった。ローレンさんはまずサンシャインスカイウェイブリッジという橋を見せてくれた。とても大きな橋で真下まで行く



美しい自然を満喫

と車が通る大きな音が聞こえてすごい迫力だった。この橋は昔、船が引っかかって落ちたことがあるのだと教えてくれた。こんなに大きな橋をどのようにして修理したのか気になったがローレンさんは知らないようだった。この橋の下はたくさんの船が行き来していたが、東の方から一際大きな船が来るのが見えた。ローレンさんが海軍の船だと教えてくれた。通り過ぎるのを見ているとその船の前方に何か灰色の何かが見えた。なんだろうと思ったとき、ローレンさんが「イル

カだ!」と叫んだ。よく見てみると確かにイルカだった。初めて野生のイルカを間近で見たのでとても興奮した。イルカにお別れをして今度はメキシコ湾を見せてもらった。果てしなく続く水平線を見てメキシコ湾の大きさを実感した。瀬戸内海とはまた違った広い海とその上の大きな雲の美しい光景を見ながらバナナとリンゴを食べた。アメリカに来てからも何気なく食べていたが今日は格別に美味しい気がした。その後、国立野生動物保護区のある「Egmont Key」という島やきれいなビーチのある島々を船で見て回ったり、泳いだりした。とても疲れたが大満足で帰ってきた。休む間もなく、急いでシャワーと着替えを済ませSPIFFS：セント・ピーターズバーグ国際民族会のメンバーの方の自宅で開催されたバーベキューパーティーに向かった。30分くらい遅れて行ったのもうすでに始まっていた。ジャッキーさんとローレンさんは今日が休日だったので一緒に参加してくれ嬉しかった。たくさんの人が来ていていつもよりは人と話す機会も多かったが、まだアメリカのスピードの早い英会話に慣れることが出来ず、相手の質問に答えられなかったりして悔しかった。また、聞き取れなくても、結局単語が分からなかったりして自分の意見を言えなかったりした。改めて自分の英語力の未熟さを思い知らされた。パーティーはアットホームな感じで、みんなやさしく料理も美味しかったのでとてもよかった。

7月31日(日)

今日はタンパベイ・レイズの試合を見に行った。ローレンさんは都合で来れなかったが、ジャッキーさんは来ることになっていたので楽しみだった。レイズの本拠地球場であるトロピカーナフィールドに着くとまずその大きさに圧倒された。遠くから見るのと、近くで見るとは大違いだった。スタジアムの周囲にたくさんのパトカーや警察官を見かけたり、手荷物検査をしたりしているのを見て、テロを警戒しているのかなと思った。ジュースを買ったり、席を探すのに手間取って、自分の席に着いた頃にはもうすでに始まっていた。最初は空席が見られたが、



メジャーリーグ観戦

3、4回になるころにはたくさん人が来て殆どの席が埋まっていた。こういうところものんびりしているのだなと思った。タンパベイ・レイズの対戦相手はニューヨークヤンキースだった。やはりメジャーリーグとだけあって両チームとも球の速さや選手の動きなどが素人の私からみてもすごいなあと思うものばかりだった。ジャッキーさんはニューヨークヤンキースが好きなようで、その帽子を被ってタンパベイ・レイズの応援席にいたのでなんだか面白かった。観客はみんなベルなどを使って応援していて全体的に一体感が感じられた。私とジャッキーさんはこの後ビーチに行く予定だったので8回で帰った。最後まで見たかったので少し残念だった。帰りの車の中でタンパベイ・レイズが勝ったと知り嬉しかった。ビーチは滞在している家からすぐ近くにあるのだが、来るのは今日が初めてだった。17時位だったがまだ明るくたくさんの人が泳いでいた。波が少し高く、何回か海水を飲んでしまった。30分位泳いでから、ジャッキーさんと砂浜で開催されていたミュージックフェスティバルに行った。太鼓と笛を中心とした演奏で、なんだかアフリカの民族音楽のようだった。演奏しているグループの周りにたくさんの人が集まってとても盛り上がっていた。疲れたのでビーチの近くにあるホテルのレストランでスチームシュリンプという料理を注文した。この料理は、蒸したエビをケチャップベースのソースにつけて食べる料理だ。これはとても美味しく、私の好物になった。家に帰りシャワーと夕食を済ませ、ローレンさんと大統領選挙の党大会スピーチをテレビで見た。候補者だけでなく一般の支持者も演説していた。感情に訴える演説が多かったように思える。また参加者は若い人達が多く、若い世代も政治に関心があることが分かり日本と逆だなと感じた。私達も日本の政治について興味を持つべきだなと思った。



大好きになったスチームシュリンプ

8月1日(月)



バルコニーからの眺め

朝ごはんを食べながら、何気なく外の海を見ると灰色の何かが見えた。そう、イルカだ！二頭のイルカが朝日に向かって泳いでいてとても美しかった。イルカに元気をもらい気持ちよく1日をスタートできた。今日はまずザ・ヴィノイ・ルネッサンスホテルを見学した。このホテルは高級だと聞いていたが、確かにシャンデリアや装飾品、従業員の立ち振る舞いから、格式の高さが伺えた。将来またここに来たときは、ぜひここに泊まりたいなと思った。午後からはセ

ント・ピーターズバーグ商会議所で2回目となる、香川・高松についてのプレゼンテーションをした。2回目とはいえ前回同様緊張で発音を間違えたり噛んでしまったりした。みなさん私達のプレゼンテーションの内容に興味を持ったようで、たくさん質問をしてくれた。私は香川の「食」の担当で事前に資料を読んでいたの大体答えられる自信はあったのだが、「うどんは海水を使って作ったり



セント・ピーターズバーグ商工会議所にて

していたのか？」と聞かれて応えることが出来なかった。自分自身考えたこともなかった質問で感心すると同時に、応えることが出来ずとても悔しかった。プレゼンテーションが終了すると、商工会議所内にあるお店へ行った。ここは石鹸やキーホルダー、マグネット等地元のアーティストが作ったものが売られているらしく、現品限りのものも多いようだった。商工会議所の方から、セント・ピーターズバーグの名前が入ったTシャツを記念に頂いた。記念になるTシャツ

が欲しかったので、とても嬉しかった。みんなに挨拶とお礼をして帰った。ジャッキーさんが「Ming Ming Tea Cafe」という日本食のカフェに連れて行ってくれた。アメリカ人と中国人の夫婦が経営しているらしく、店内は私の予想に反して、ファミリーレストランのような感じだった。私はサーモンとマグロの握り寿司を3貫ずつ注文した。運ばれてきた寿司は日本で見るものそのもので、普通に美味しかった。ジャッキーさんは日本食が恋しくなるとここに来るそうだ。夕食は、ネオンが光るいかにもアメリカンな感じのする店で食べた。ローレンさんとジャッキーさんはダイエット中のため、リゾットにサラダ、焼きサーモンと比較的低カロリーなものを食べていた。私は、ローレンさんお勧めのピザを頼んだ。案の上、アメリカンサイズでフライドポテトまで付いてきた。結局ピザを半分近く残してしまった。するとローレンさんが何かと理由をつけ、ダイエット中にも関わらず全部食べてしまった。私とローレンさんは大笑いだったが、ジャッキーさんは呆れているようだった。ローレンさんはおおらかでチャミングだけど時々脱線したり暴走するのをジャッキーさんが咎めるといふ構図が微笑ましかった。



アメリカンサイズのピザ

8月2日(火)



プールでローレンさんと

いつも通り起き、いつもと同じ朝食を食べた。この生活も今日が最後なのだと思うと寂しく感じた。今日の午前中は、プールで泳いだり、バルコニーから風景を眺めたりとのんびり過ごした。午後からは、写真家であるジャッキーさんに、浴衣を着た私の姿を撮ってもらった。色々な機材を使って本格的だった。モデルになったような気分が経験出来てとても楽しかった。18時からは、「Sunshine Center Auditorium」でSPIFFSのメンバーの方々による送別会に参加した。

まずは私達プレゼンテーションだった。3回目になり、前の2回よりは落ち着いて発表出来たので緊

張によるミスも殆どなかった。プレゼンテーションの後は、ロシアとドミニカ共和国のダンスを見た。どちらもとても美しく見入ってしまった。その後は、みなさんが持ち寄った様々な国の料理を食べた。研修期間中お世話になった人たちがたくさん来ていた。今回の研修で色々案内してくれたウィリアムとヴァネッサやみなさんに最後の挨拶したり、互いの連絡先を交換した後家に帰った。予定ではこの後最後にホストファミリーと日本食を食べに行く予定だったが、ローレンさん



最後のプレゼンテーション

の体調が優れず行けなくなった。ローレンさんは私に申し訳なく思っていた様子だったので、「問題ないよ」と伝えた。しかし、私は送別会で少ししか食べず空腹だったので、ジャッキーさんと「カピタンビル」というお店へ行った。ここでも私の好物となったスチームシュリンプを注文した。もうこの料理を食べるのも最後かと、大事に味わった。私はここでセスという店員と知り合った。彼は16歳の学生で日本について興味があるようで、いろいろなことを質問してきた。高校や、人の性格、気

候・風土など様々な日本とアメリカの違いについて話した。私と1歳違いとは思えないほど彼はしっかりしていて、自分の考えを持っていて、かっこいいなと思った。私もこうなりたいと思った。最後にずっと友達でいることと、いつかまた会いに来ること約束して店を出た。最初来たときはついつい現地の人と英語で話すことをためらってしまっていたが、今日普通に話すことが出来た自分に少し驚いた。それを考えると少しは成長できたのかなと思った。



アメリカの友達セスと

8月3日(水)

早朝の便で出発する為、午前3時30分起床。こんな時間に起きたことがなく起きられるか不安だったが目が覚めた。家を出る前にジャッキーさんとローレンさんに滞在中私のお世話をして下さいと、様々なことを勉強させてくれたことに感謝の意を伝えた。二人も私に感謝の言葉と、いつでも来ていいよと言ってくれた。途中の車の中でも、ポストカードにお礼の気持ちを書いて渡した。空港で、いつかまた会いに来ると約束し、握手とハグして別れた。私が滞在している



最後の別れ

間、色々なことを教えてくれたり、一緒に楽しくご飯を食べたり遊んだりまさにアメリカのお父さんとお母さんだ。必ずまた会いに来るぞと強く思った。今回私達の研修を手配して下さいだったSPIFFSのロッタさんや各研修生のホストファミリーの方々の見送り後、タンパ空港を出発した。アメリカは広

くてたくさんの人種が共存していてなにより大らかで伸びやかな国だった。多様な生き方をしている人にも出会った。セント・ピーターズバーグ市に来なければ出会えなかった人、場所、風景などが頭の中をぐるぐる回った。もう少しアメリカにいたい気持ちと早く日本に帰っていつものごはんを食べたい気持ちが交錯していた。あっという間の12日間だったが私にとっては一生忘れることのできない濃密な12日間だったと思う。

感想文



香川県立三木高等学校1年
古市 一真

かけがえのない12日間

セント・ピーターズバーグ市での体験は、私にとってかけがえのない大切なものになりました。自分の見聞を広げ、深めることができたのはもちろん、物事に対する考え方も変わったように感じます。

まず、自分の考えを持つことの大切さを学びました。私自身、他人の考えに何となく同調したり、社会問題について無関心なことが多かったため、日本の政治状況や国際的な問題について考えを聞かれた時に答えることが出来ませんでした。何事にも関心を持ち、自分の考えをはっきり言えるアメリカ人に感心すると同時に、何も知らず、また知ろうともせず答えることの出来ない自分がとても情けなく思いました。グローバル化が進む現代で、自分なりの視点で堂々と意見を言える能力はますます重要になるでしょう。そのためにはある程度の英語力がないと会話が成り立ちません。今回、自分の英語力がいかに未熟か思い知らされました。挨拶の後が続かなかったり、話すスピードについていけなかつたり、やっと聞き取れても単語の意味が分からず閉口してしまったことは日常茶飯でした。とりあえず、相手の会話からわかる単語を拾い、それをパズルのように組み立てて、言っていることを想像するというサバイバルリスニングで乗り切りました。このことから、英会話には学校で習う文法より、発音を正確に聞き取るリスニング力、そしてそれを理解するための豊富な語彙力が重要だと強く感じました。それでもさすがに4日目には英語漬けの毎日に疲れ、へこむ時もありましたが、出会った方々に笑顔で「No problem!」と励まされ、最後まで英語の生活をがんばることができました。感謝の気持ちでいっぱいです。

今回現地で、研修生3人による茶会をする機会に恵まれました。そのおかげで、自国の伝統文化の良さを再確認するとともにそれを披露して伝えることの楽しさを学びました。

最後に、この研修に携わってくださった皆様、ありがとうございました。これからも、高松市とセント・ピーターズバーグ市の友好がずっと続いていくよう、私なりに活動していきたいと思っています。

